

2026年4月28日

国際銅研究会（ICSG）2026年4月プレスリリース

日本鉱業協会 企画調査部

国際銅研究グループ（ICSG）は、4月23日（現地時間）にポルトガルのリスボンで2026年春季総会を開催し、世界の主要な銅生産国および消費国の政府代表と業界アドバイザーが参加、世界の銅需給状況について議論、4月23日付にて下記内容のプレスリリースが発表された。

1. 2026年と2027年の世界の銅需給予測

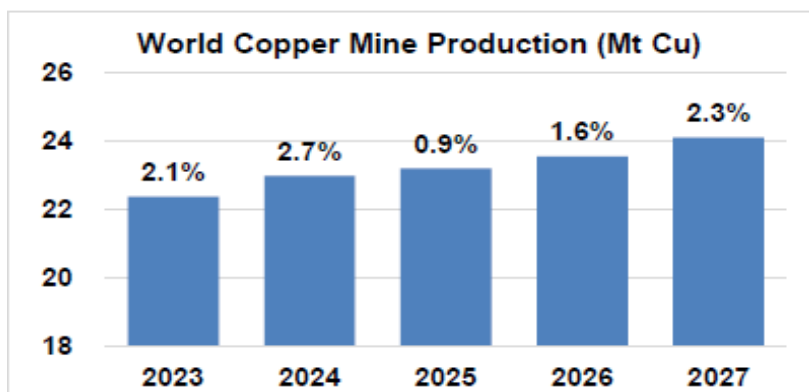
1) 銅鉱石生産

世界の銅鉱石生産量は、2026年に対前年比1.6%増加し、2027年には2.3%の増加が見込まれる。

2026年の世界の鉱山生産量は、ICSGが2025年10月に予測した前年比2.3%増から1.6%増に下方修正された。これは主に、コンゴ民主共和国、チリ、インドネシアの増加率の下方修正を反映したもの。グラスベルグ鉱山とカモア鉱山は、2025年に発生した重大な事故の影響で引き続き低調な生産量となっている。

世界的な生産量の増加は要因に、オユ・トルゴイ鉱山（モンゴル）とマルミズ鉱山（ロシア）での増産、ジュロン鉱山（中国）とアルマリク鉱山（ウズベキスタン）の拡張、コブレ・パナマでの備蓄鉱石の処理、およびいくつかの鉱山における前年の低調な生産量からの回復が見込まれることによるもの。

2027年には対前年比2.3%というより高い成長率が予測されており、これは多くの国における新規/拡張された生産能力の継続的な増加、チリとザンビアの生産量の改善の見込み、インドネシアとコンゴ民主共和国の稼働率の回復が寄与している。

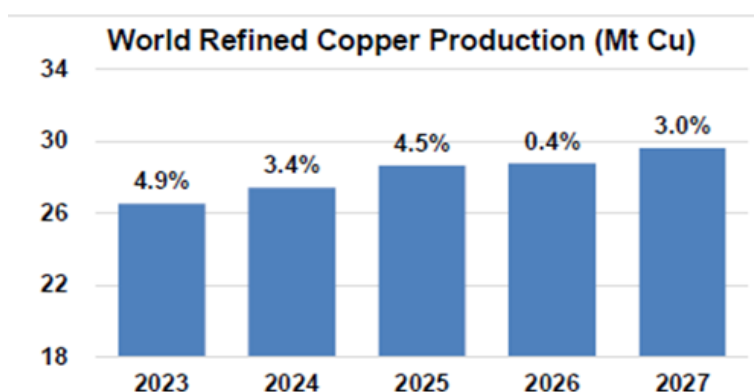


2026年、2027年の両年とも、特にアンゴラ、ボツワナ、ブラジル、コンゴ民主共和国、エクアドル、エリトリア、フィリピン、ギリシャ、モンゴル、トルコ、米国における小規模な拡張や中小規模鉱山の操業開始が、世界的な生産量の増加に貢献すると見込まれている。

2) 銅地金生産

世界の銅地金生産量は、2026年に対前年比0.4%増加すると予測されている。新規設備や生産能力の増強によりSX-EWおよび二次（スクラップ由来）生産量は引き続き増加するが、一次電解精製生産量の増加は精鉱の供給が限られているため制限されると予測される。

2027年は、精鉱の供給状況の改善とSX-EWおよび二次生産能力の拡張計画の結果として、世界の銅地金生産量は3%増加すると予測されている。一次精製生産量は2.3%増加の予測である一方、二次精製生産量（スクラップ由来）は5.7%の増加が予測されている。



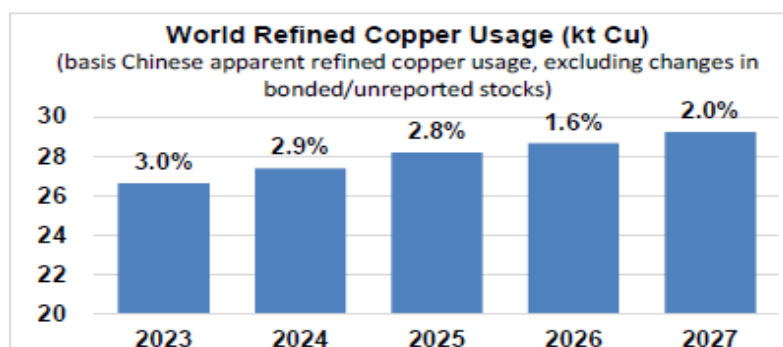
3) 銅地金消費

中東紛争をめぐる不確実性および貿易フローの混乱により、世界経済の成長見通しが悪化し銅需要に悪影響を及ぼす可能性が高いことを踏まえ、精製銅の消費量増加率についてICSGの2025年10月予測から下方修正した。

2026年の世界の精製銅消費量増加率は対前年比1.6%（従来予測は2.1%）と予測しており、その内、中国の消費量は約1.9%、その他の地域では1.3%増加すると見込んでいる。

2027年の世界の精製銅消費量は2%増加すると予測。アジアは引き続き世界的な成長の主な原動力であるが、他の主要な銅消費地域での需要は、特にEUと日本において低迷が続くと見込まれる。

しかしながら、基本的には、銅の主要な最終用途分野における製造活動の改善、エネルギー転換、都市化、デジタル化（データセンター）からの継続的な需要、および他の多くの国々における新たな半製品生産能力の開発によって、世界的な消費量は引き続き堅調に推移すると予測される。



4) 世界の銅地金需給バランス

世界の銅地金需給予測では、2026年には約9万6000トン、2027年には約37万7000トンの余剰が見込まれる。

ICSGは、現在の中東での紛争など、多くの要因により世界の需給バランスが予測と異なる可能性があることを認識しており、最近の事例においても、予期せぬ展開により、実際の需給バランスの結果がICSGの予測から乖離した事例があること留意頂きたい。

ICSGは、世界需給バランスを算出するにあたり、中国の見かけの需要計算を使用しており、この計算では、報告されていない在庫（国家準備局（SRB）、生産者、消費者、商人/トレーダー、保税在庫）の変動は考慮されていない。これらの在庫は、在庫増減期に大きな影響を及ぼし、世界の需給バランスを大きく変動させる可能性がある。又、中国の見かけの銅需要は、報告されたデータ（生産量+純取引量+/-SHFE在庫変動）のみに基づいている。

2026年については、約9万6000トンの供給過剰が見込まれており、これは10月に予測された15万トンの供給不足とは対照的である。この供給過剰への転換は、銅の消費量が以前の予測を下回ったこと、および二次精製銅の生産量が増加したことによるもの。

又、2027年には市場が約37万7000トンの供給過剰になると現時点では予測している。

World Refined Copper Usage and Supply Forecast

Thousand metric tonnes, copper

REGIONS ('000 t Cu)	COPPER MINE PRODUCTION			REFINED COPPER PRODUCTION			REFINED COPPER USAGE		
	2025	2026	2027	2025	2026	2027	2025	2026	2027
Africa	4,490	4,589	4,949	3,124	3,235	3,467	193	192	173
N.America	2,209	2,313	2,398	1,604	1,701	1,721	2,291	2,321	2,361
Latin America	8,761	9,101	9,504	2,129	2,281	2,430	391	392	396
Asean-10	746	827	1,061	500	686	1,042	1,235	1,261	1,324
Asia ex Asean/CIS	2,839	3,061	3,309	16,677	17,680	18,028	20,120	20,469	20,907
Asia-CIS	983	1,067	1,109	490	501	496	107	107	107
EU	750	768	805	2,391	2,585	2,920	2,961	2,996	3,025
Europe Others	1,587	1,747	1,812	1,286	1,330	1,432	903	926	942
Oceania	832	776	883	454	437	461			
TOTAL	23,197	24,249	25,830	28,656	30,437	31,996	28,201	28,664	29,236
World adjusted 1/ 2/	23,197	23,559	24,103	28,656	28,760	29,613	28,201	28,664	29,236
% change	0.9%	1.6%	2.3%	4.5%	0.4%	3.0%	2.8%	1.6%	2.0%
World Refined Balance (China apparent usage basis)							455	96	377

1/ Based on a formula for the difference between the projected copper availability in concentrates and the projected use in primary electrolytic refined production.

2/ Allowance for supply disruptions based on average ICSG forecast deviations for previous 5 years.

2. ICSG の次回総会日程
2026 年 10 月にリスボンで開催予定。

以 上